

鳩だより(敬称略)

祝 洗 礼

3月20日(日) マツテヤ 末永 善哉 徳山聖マリア教会
3月27日(日) ミカエラ 土田 英世 神戸聖ミカエル教会
3月31日(木) サ ラ 藤坂 武子 神戸聖ミカエル教会

教 籍 移 動

4月1日(金) マリア 林 愛 マリーモードリン
4月2日(土) ヤコブ 小林 正典 サ ラ 小林 江美 エステル 小林 美翔 倉敷
聖クリストファー教会より 岡山聖オーガスチン教会へ
4月3日(日) 日本バプテスマ前橋教会より 神戸聖ヨハネ教会へ

ご 逝 去

3月31日(木) ステパノ 天 羽 一夫 広島復活教会
4月8日(金) ヨハネ 松本 一郎 米子聖ニコラス教会

神戸伝道区

◎神戸聖ヨハネ教会
今春からウイリアムス神学館で学ばれる当教会信徒2名(ルカ宮田裕三兄・バルナバ永野拓也兄)の壮行礼拝を3月27日(復活日)&4月3日(復活節第2主日)に、それぞれの御家族をお迎えして行った。



広島伝道区

◎徳山聖マリア教会
感謝
徳山めぐみ幼稚園
新園舎祝福式
山口県周南市にある徳山めぐみ幼稚園(園長村田佳奈・園児数198名)の新園舎祝福式が園児と関係者を集めて3月19日(土)に行われました。式典は園児と熊谷組(設計施工)の代表者がくすだまを割り、母の会のハレルヤコーラスで晴れやかにスタート。西田宏三理事長は冒頭挨拶の中で、園児・保護者



2016年5月号
発行所 神戸教区事務所 TEL 078(351)5469 FAX 078(382)1095 http://www.nskk.org/kobe/
発行責任者 司祭 芳我 秀一
印刷所 文明堂印刷所

風、息吹、聖霊

彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

ヨハネによる福音書二〇章三節

司祭 ペテロ・パウロ 柳本 博人



聖霊降臨日は、人間の救いのため、神様とこの世との和解のために、十字架の上にご自身を献げられ、復活され、父なる神様の許に帰られたイエス様が、その後、全く同じ救いの業を続けられるために、聖霊なる神として、再びこの世に降られたことを覚える祝日です。

父なる神様から送られた聖霊・ギリシャ語のプニューマという言葉は、「風」「息吹」「霊」という意味を持っています。
聖霊降臨の出来事を記した使徒言行録は、その様子や、「激しい風」が吹いて来たような音が聞こえたこと、聖霊降臨日に聞く福音音の中では、イエス様が弟子たちに「息」を吹きかけて、「聖霊を受けよ」と命じておられます。
「神からの風」「神の息吹」が弟子たちの上に降された時、教会は誕生しました。

「神からの風」「神の息吹」という言葉は、いかにも聖書的な表現のようですが、日本人も、昔から同じ様な感性を持ち合わせていたのかも知れません。
芭蕉は、奥の細道の冒頭で「予も何れの年よりか、片雲の風に誘われて漂白の思い止まず」と語り、時宗の開祖・一遍上人は「居住を風雲に任せ、身命を山野に捨てる」という言葉を残しています。
古の日本人は、自分の根底を吹き抜けて行く自分では押さえ難い自分を超えて、「摂理」、人間の業を超えて、自分に働き掛ける「力」を「風」と呼んで来たようです。
そして、キリスト教では、この「風」「力」を「聖霊」と呼んでいます。
古代と中世の境目の時代に活躍した教父の聖オーガスチンは、聖霊降臨の時、

キリストが約束どおり聖霊としてこの世に降られたその目的について、そして、父なる神が聖霊を降された目的について、
「(それは)この聖霊を通して、弟子たちの心に愛が注ぎこまれ、彼らが法を遵守することを、単に重荷に感じないだけでなく、楽しみとするようになるためであった。」
と語っています。法とは、「心を尽くし、魂を尽くし、精神を尽くして主なる神を愛すること」「隣人を自分と同じように愛すること」でしょう。
聖霊降臨日に降された聖霊、教会をこの世に誕生させた聖霊は、「自分では如何ともし難い、自分を超えた力として、自分に働き掛け、神様と人とを愛すること、仕えることを楽しむこととさせる力」のことのようです。

初代教会は、聖霊を受けたことよって、難題である神様と人とを「愛すること」と「仕えること」を楽しむとすることをやってのけました。
彼らは、神様の偉大な業を人々に仕える大役を果たして、
「神のおとずれ3月号」で、教区レクイエムの逝去者の中に「4月18日司祭ヨハネ桑原一郎」が記載されていませんでした。謹んで、お詫びし、訂正いたします。
「徳山聖マリア教会 ホームページ」で。
お詫びと訂正
「神のおとずれ3月号」で、教区レクイエムの逝去者の中に「4月18日司祭ヨハネ桑原一郎」が記載されていませんでした。謹んで、お詫びし、訂正いたします。



のご理解と協力、そして工事が安全に行われ、夢あふれる園舎が完成したことに感謝を述べました。園舎と園庭は「落着きと調和」をコンセプトに設計され、子どもたちの健やかな成長の助けとなる設備や配色が施されています。
2014年より、徳山の教会と幼稚園はM(マリア)&M(めぐみ)未来プロジェクトと題し、地域社会の中で三世代にわたる交流の場を創造する協働プロジェクトを展開させています。幼稚園の完成は、徳山聖マリア教会の教会増築・会館教職舎新築工事の始まりです。どうか今後とも皆様のお祈りとお力添えをお願いいたします。詳しくは「徳山聖マリア教会 ホームページ」で。
新しくなった園舎

(松山聖) アンテレ教会 牧師 大洲聖公会(管理)

フィリピン ワークキャンプ

今、与えられているもの

ルシア松崎那奈

私はこのフィリピンワークキャンプで「自分の与えられているもの」に気づく大きな経験をさせていただきました。今回の派遣先は首都マニラよりバスに乗って、揺られること5時間。ヌエバエシハ州のパラワンにあるSt.David of Wales Episcopal教会でした。海外ボランティアは初参加だったので最初はとても不安でしたが、神戸教区からは長田司祭と参加者4名がおり、皆に心強く励ましてもらいました。そして何より、その不安を打ち消すほどの笑顔と優しさが私たちを待っていてくれたのです。



今回のワークでは、フェンスを作りまし。最初は柵のようなものを作ると思っていたが、実際はブロックを積み上げ、セメントで固めるという本格的な塀でした。体験するまでは、フェンス一つ作るのが高い中、重いセメントを混ぜたり運んだり、大変な重労働です。疲れもありましたが、村の人たちとも声を掛け合いながらの作業することで、一体感と絆のよなものが生まれたと思います。子供たちもフェンス作りを手伝ってくれました。皆が炎天下の下で集まり、協力し合う姿から、それぞれの個人が村や教会のことを思う強い気持ちを感じる事ができました。

私は、村の子供たちと過ごした時間から、たくさん学ばせていただきました。フィリピンの子供たちの日常生活は、毎日の生活用水の水汲み、木登りで木の実を取っておやつにと活動的です。遊びは主に自然を活かした木登りや木切れを使った高飛びなどです。優に120cmは飛び越えてしまいそうでした。日本では水道をひねればきれいな水が出る、ス

パーに行けば食材豊富、小学生は集まってもゲームに向かったまま、そんな日常生活を振り返る多くの機会を与えられました。

私たちはリコーダーや縄跳び、その他にも折り紙やけん玉など日本伝統の遊びのものを持っていきまし。特にリコーダーの演奏では、現地には楽譜がなく、拙い英語と見よう見真似の説明でしたがみんな一生懸命聞いてくれ、最後の夜には『きらきら星』をみごとに演奏して聞かせてくれました。また、日本語とタガログ語を教えあつたりもしました。相手のことを知ろうという気持ちがあれば、完璧な言葉はなくても気持ちは伝わるのだと改めて実感しています。

今、私は「与えられているもの」に喜びと価値を感じています。

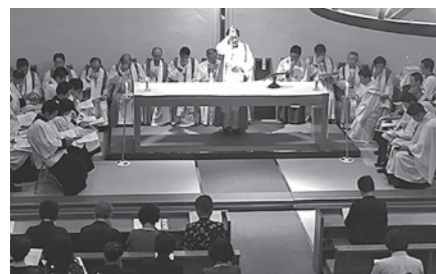
そして、モノや便利さだけが私たちの幸せや豊かさを作っているのではないかと、実感しています。また、来年胸を張って彼らに会うことが出来るよう「与えられているもの」に感謝し、貪欲に求め続ける自分を振り返りながら神様を感じて生活したいと思っています。

(徳島聖トモテ教会信徒)



広島での宣教開始は、1890年米国宣教師メドレー司祭によるものでした。1911年に降臨教会と命名して礼拝堂が建てられましたが、1944年、宗教科団体法によって解散することになってしまいました。そして原爆。そこからもう一度、伝道が開始され1950年に「広島復活教会」として再建され、1983年に現住所に移転して、再スタートが切られました。

2006年、「広島平和国際会議2006」という集いが広島市で開催され、広島復活教会の近くのカトリック世界平和記念聖堂で「平和の祈り」が献げられました。これは人種や宗教の枠を越えて集ったたくさんの方々が、南アフリカのデズモンド・M・ツツ大主教、ダライ・ラマ法王、ベティ・ワイリアムズ氏からのお話しを聞き、また共に祈りを献げた行事でした。このような行事によって、カトリック教会・聖公会の絆が生まれ、2005年から始まっていた「広島平和礼拝」でもカトリック教会との協同プログラムをはじめることができたのです。その「広島平和礼拝」では、戦後70年を迎えた昨年2015年、日本聖公会の11教区すべての主教、また韓国のキム・グンサン議長主教もご出席され、共に原爆が投下された8時15分に鳴らした鐘の音を聞き、原爆で犠牲になつた方々を悼み、世界平和のために祈りの時を持ちました。



広島復活教会の付属として60年の歴史を持つ、栄光幼稚園、聖モニカ幼稚園は、2004年に学校法人格を取得しました。栄光幼稚園は2013年、保育園を併設

した「栄光こども園」として新しいスタートを切り、聖モニカ幼稚園が併設されている聖モニカ礼拝堂では、ガールスカウト広島県16団、ボーイスカウト広島26団の活動が続けられています。

(牧師・長田吉史司祭)

第53回 中高生大会準備会

ペテロ 中原 綾真

私たち第53回中高生役員は、3月20日、21日を使って8月に行われる第53回中高生大会に向けての準備を徳島インマヌエル教会で行いました。

20日は徳島インマヌエル教会に中高生大会の役員が集まり、本大会で行う予定の流し素麺をしました。このプログラムは中高生が考え、竹や素麺の具材も、中高生たちで準備しました。竹を切ったり、素麺の具材を切ったり、作ったりするのは大変でした。しかし、教会の先生や婦人会の皆様の協力もあり、やりきることができました。そして寝るまで、本大会のプログラムで自

青年交流会開催!

セシリア 江見かのん

3月20日から21日までの2日間、神戸聖ミカエル教会にて青年交流会(の新青年歓迎会)を行いました。神戸での開催ということもあり、教役者・青年合わせて参加者13名と、去年に比べ多くの方に参加していただきました。初日のプログラム①では、「自分と教会の関わり」について2時間みっちり話し合いました。青年会の今後の在り方や活動のビジョンを各自持つことをゴールとし、事前に用意したアンケートを基に「なぜ教会に行くのか」「行かないのか」「教会での自分の役割は何か」「なぜ青年交流会に参加したのか」「どうすればもっと参加者が増えるか」などの質問に答え、それぞれの意見を共有しました。



はつきりした結論を出すことはできませんでしたが、教会に縁のない方でも参加してもらえよう、まずは教会という場所に足を運んでもらう機会を作り、さらにそこでのイベント企画等

ができれば、私たちの考える理想的な青年会の形に近づけるのではないかと思います。私自身、役員としてこのプログラムの進行を務め、みんなの教会に対する思いや青年会の活動について様々な意見を聞きながら、こうした意見交流の場を持つことの大切さと必要性を強く実感しました。

夕食はお好み焼きと広島焼きを作りまし。夕食に飛び入り参加してくださった方もいて、みんなで楽しい団欒の時を持ちました。

2日目のプログラム②は教区の行事報告を行い、「沖縄週間」や「フィリピンワークキャンプ」に参加した青年たちからのプレゼンテーションがありました。「次は参加したい!」などの声も挙がり、今後の青年会がさらに盛り上がる予感がしています!

今年度は行事の多い一年です。青年交流会、役員をはじめもっと活動の場を広げていきたいと思っておりますので、どうぞ今後ともより一層のご指導、ご協力の程よろしくお願いたします。

(神戸聖ミカエル教会信徒)

集え!中高生たち!

石躍 胤明

分たちが何をしなければいけないのかを話し合いました。21日は、朝から大会の会場である鷺敷野外活動センターに行きました。この施設は、体育館が広くて大きく、また宿泊施設も新しい、素晴らしい施設です。この施設で私たちは、大会中の4日間をお世話になるので、冷蔵庫の大きさ、浴室ではドライヤーが使えるのか?体育館は何時まで入場可能なのか?など、たくさんの方から伺いました。

(徳島インマヌエル教会)

この大会に向けて第53回中高生大会役員一同、精一杯準備してきます。これからもお祈りください。よろしくお願いたします。



第53回神戸教区中高生大会
日程: 8月15日~18日
場所: 鷺敷野外活動センター (徳島県)

前文でお伝えしましたように、僕たち第53回中高生大会役員は、精いっぱい準備を進めています。会場は北を向けば綺麗な緑の山並み、南を向けば青い清らかな川です。ここで、みなさんとの絆を深め、また、新たな出会いの場となることは間違いありません。さには間違いありません。さらに、広い体育館で仲良くチームワークを競いながら、スポーツをし、その後は、檜の木でできた風呂でさっぱり気持ちよく汗を流して、教会の皆と楽しく夏休みを過ごしてみませんか? 初めて来る方も大歓迎です!最初は、緊張するかもしれませんが、誰だって「初めて」という経験はするものです。新しい友達、新しい楽しみ、新しい経験などを積んで、新しい一歩を踏み出してみてはいかがでしょうか?この経験で自分「らしさ」を磨いてみんな「らしさ」に触れてみませんか?役員勿論、いつも来てくれる仲間と共に皆さんをお出迎えいたします。是非、この中高生大会にご参加してください。役員共々、お待ちしております。

(徳島インマヌエル教会)